

令和8年度第1回 松江地域保健医療対策会議 医療・介護連携部会 議事概要

【日 時】 令和8年8月19日（水）14:00～16:00

【場 所】 島根県市町村振興センター大会議室

【出席者】 各病院長、医師会、介護支援専門員協会、訪問看護ステーション、保険者協議会、
保険者、老人保健施設協会、在宅医療支援センター等（委員：26名）
※ 他、オブザーバー参加23名

【議事内容】

1. 病床数適正化緊急支援事業にかかる検討【資料1～3】

■ 申請医療機関（10か所）にかかる審議

国政策に沿った在院日数短縮の取組み、人材不足等による空床が生じ、段階的に病床整理を実施。削減後の病床数でも稼働率から後方支援や在宅療養支援などに影響はなく、感染症等パンデミック発生時の対応も可能。

<意見>

- 感染症流行時など有事も想定して適切に対応できるかどうかの配慮も必要。
- 入院期間も短縮化する中、介護側では病院との連携を図りつつ、円滑な在宅介護の再開を心がけているが、入院が必要な人、医療でないと対応できない人は一定程度いるため対応をお願いしたい。
- 病床削減の方向性はやむを得ないが、市民への影響がないことが重要。現在の医療の状況を市民、特に高齢者にも届くような啓発も必要。

<結果> 申請にかかる異議なし

2. 第8次島根県保健医療計画中間評価及び新たな地域医療構想にかかる意見交換

■ 医療と介護の連携

- 入院契機に介護が必要となる対象もあり、医療と介護の連携は重要。迅速かつ円滑に情報共有を行うには、ICT活用も重要。
- 入院前施設に戻る際には受入施設側の規定もあり、治療不十分な中で施設に戻ることで再入院に至る事例も生じ、受入施設の実情も踏まえた対応が必要。
- 医療や介護の複合ニーズを有する、身寄りのない高齢者への支援も増える中、医療介護の人員不足から対応の限界性もあり、今後は急変時の対応含めた在宅専門医の積極的な対応がより重要視される。
- 生活習慣病の重症化予防、健診受診など入院に至らない予防医療も重要。

■ ICT 活用、情報連携

- かかりつけ医として外来や施設で診ていた患者さんの病院における指導内容等が共有できるよう、まめネットなどの活用が重要視されるが、都度の患者同意が必要だったり、登録施設が少ないなど普及への課題もあり。医療連携協定 10 病院のなかで意見交換を進める必要がある。
- ICT 導入は各施設で対応差あり、市全体で ICT 化を進める方針も必要。
- ICT 導入時は補助があってもランニングコスト負担の経費的な問題もある。